

【入選】

できることから始めよう

仙台市立郡山中学校
二年 斉藤 舞

水はみんなにとつてはなくてはならないもの。それは、人間だけではなく、地球のあらゆる生き物にとつても大切な命の源だ。人間が生きていくために必要な水は一人一日約三リットルだといわれている。だが、このわずかな水が手に入らず、世界では約7億人の人々が苦しんでいる。詳しいことを調べてみた。

世界人口の半数以上が水道を使えるようになった今なお、約7億人もの人々が、安心して飲める水が身近になく、池や川、湖、整備されていない井戸などから水をくんでいる。多くの途上国では、水くみは子どもたちの仕事で、水の重さにたえながら、毎日遠い道のりを歩き続けている。疲れ果てた子どもたちには、学校に通う時間も体力も残されていない。子どもたちの多くは、池や川、野ざらしの井戸など、飲用に適さない水源に頼るしかなく、ようやく水源にたどり着いても、そこには多くの場合、泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水しかない。浄水処理をしないまま飲むと、抵抗力の弱い子どもたちは、たちまち下痢を起こしてしまうそうさだ。汚れた水を主原因とする下痢で命を落す乳幼児は、年間三千万人、毎日八百人以上にもほつている。

さらに、手に入る水の量が少ないために、身体や生活環境を清潔に保てなくなると、子どもたちは肺炎などさまざまな病気に感染しやすくなる。とても不衛生な環境だということだ。

エチオピアの、私と同じ十三歳の少女は、朝早くから夕方近くまで、炎天下の砂漠を一日中歩いて、家族のために水をくむ。それでも手に入るのは、一人あたりわずか五リットル未満の茶色い水だけだ。

このようなことを調べて、私はとても驚いた。私と同じくらいの子どもたちが、水についてこんなに大変な思いをしていることを改めて知った。今まで私は、なにも気にせず水を使っていた。蛇口をひねればきれいな水が出てくることは、あたりまえだと思つて十三年間過ごしてきた。しかし、いろいろなことを調べてみて、水の大切さを改めて実感した。

そこで私は、今の私にできることは何か、考えてみた。できるのであれば、今すぐアフリカへ行き、井戸をたくさんほつてあげたい。きれいな水を、飲ませてあげたい。でも今の私には、まだそれはできない。だったらせめて、水の無駄づかいをしないようにしましょう。いままで気にもとめていなかったシャワーの出しっぱなしや、ハミガキの最中の水の出しっぱなし。そんな細かいところからでも、節水に気をつけていきたい。

そして、できるだけ水を汚さないように気をつけたいと思う。食器を洗うお手伝いをする時に、汚れた油をそのまま流していたけれど、これからは、そのまま流さずに、新聞紙などで拭き取つてから洗いたいと思う。私のできることはそんなことぐらいしかないけれど、蛇口をひねつて水を使うときには、きれいな水が飲めることに感謝をして、大切に使いたいと思う。

この作文を書くにあたつて、いろいろなことを調べてみたことで、水の大切さを実感することができた。なんの不自由もなくきれいな水を使うことができる私たちは、どんなに幸せなのかということに改めて感じた。これから生きていく上で、水の大切さを忘れてはいけない。そしてこれから、きれいな水が手に入らない世界中の子どもたちのため、未来のため、私たちにできることを考え、それを実践していこうと思う。